令和５年度第２回「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」有識者会議
会議録

日　時　　令和５年９月８日（金）　　午後１時57分～午後４時03分
場　所　　神田一橋中学校　地下１階　多目的室

議事日程
第　１　教育長挨拶
第　２　議題
　　ＩＣＴ関連（神田一橋中学校の授業視察を含む）
　　（１）園内業務支援システム
　　（２）ＩＣＴ学校教育システムの推進
第　３　その他

出席者
点検及び評価に関する有識者（５名）

武蔵野大学副学長（教育学部長）	上岡　学
元多摩市教育長	清水　哲也
元国士舘大学体育学部 こどもスポーツ教育学科教授	藤井　千惠子
日本女子大学家政学部児童学科特任教授	粂原　淳子
山梨大学大学教育センター教授	日永　龍彦

学校長

神田一橋中学校長	盛谷　樹

事務局（14名）

教育長	堀米　孝尚
子ども部長	亀割　岳彦
教育担当部長	大森　幹夫
子ども部参事（連絡調整担当） （事務取扱　子ども総務課長）	小玉　伸一
教育政策担当課長	窪田　友紀子
子ども支援課長	湯浅　誠
子育て推進課長	小阿瀬　広道
子ども施設課長	赤海　研亮
学務課長	大塚　立志
指導課長	山本　真
指導課統括指導主事	内山　宝

副参事（特命担当） （九段中等教育学校経営企画室長兼務）	大塚　光夫
子ども総務課子ども総務係長	江口　友規
子ども総務課子ども総務係	濱本　美那

欠席事務局（１名）

児童・家庭支援センター所長	吉田　啓司

子ども総務課長　皆さん、こんにちは。

まだ定刻前でございますが、皆様おそろいでございますので、ただいまより令和５年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の第２回有識者会議を開始いたします。

皆様、本日も大変ご多用のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

早速ではございますけれども、本日の次第に沿って進めさせていただきます。

それでは、まず、堀米教育長よりご挨拶を頂きます。教育長、よろしくお願いいたします。

教　育　長　はい。皆さん、こんにちは。台風が近づいている中、大変雨も強い中、委員の先生、定刻前にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

第２回の点検・評価ということで、今日はＩＣＴ関連でお集まりいただきました。前回に引き続きまして、千代田区の教育課題として、特別支援に関わること、そして、不登校に関わること、あと、もう一つは、大きくはＩＣＴ教育の推進ということで、教員または保育士の業務改善ともに、先生たちの指導法の改善ということも、大きく進めていると。特に、子どもたちの利活用については、関東、全国でも上位に属しているということで、大分進めてはいるのですが、今日は、特にＩＣＴに関しまして、保育園に新しいシステムを取り入れてやっていると。また、もっともっと発展させた導入の仕方があるわけですけども、本年度からの様子を見ていただきながら、またご意見を頂ければというふうに思います。

それから、学校においては、既に、このコロナ禍ということで、スピードを上げてＩＣＴの活用、授業での活用というのが進んでいるところでございます。今日も台風の影響がありますが、授業の補塡は、端末を使って、全部ではないかもしれませんが、配信するというような形を行っております。臨時休校にはなりませんでしたけども、九段中等教育学校においては、前からそういうものは慣れていますので、今日はリモートで配信するというように行っているわけです。そんなわけで、このＩＣＴについては大分進んだ形で、神田一橋中学校でもやっています。当たり前のように、何かあったときはすっとリモート配信ができるようなのが本当の文房具と同じような使い勝

手じゃないかなということで、今日、神田一橋中学校をお借りしていますので、校長先生のお話から実際の授業でまた見ていただくという機会を設けさせていただきました。

大変数多くの提示をさせていただいて、それぞれについてご意見ということで、なかなかタイトな時間で申し訳ございませんが、ひとつ十分な意見を頂きながら評価をしていただければ、大変ありがたいというふうに思います。どうぞよろしくお願いします。

子ども総務課長　教育長、ありがとうございます。

続きまして、第１回目は、ご都合により、別途点検・評価を行っていただいております条原委員から自己紹介を頂きたいと思います。

よろしくお願いいたします。

条 原 委 員　前回は欠席して、大変申し訳ございませんでした。日本女子大学特任教授の条原淳子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、34年間、幼稚園教員として勤務いたしまして、最後は、千代田区立ふじみこども園で４年間お世話になりました。少しでも千代田区のお役に立ちたいという気持ちと、自分自身の知見を広げて、教員養成に生かしていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

子ども総務課長　条原委員、ありがとうございました。

それでは、次第に沿って進める前に、まず、配付資料を確認させていただきたいと思います。

まず１枚目は次第です。その下に、資料１、会議名簿がございます。

なお、14番に記載しております吉田啓司児童・家庭支援センター所長ですが、本日は公務により欠席でございます。

次、資料２でございます。２枚ホチキス留めとなっております園内業務支援システム（新規）と書いてございます。その下に、資料３となってございまして、４枚ホチキス留めしてあります。５のＩＣＴ学校教育システムの推進。また、参考資料といたしまして、令和５年度事務事業概要、厚いものでございますが、お手元にお配りしてあります。そちらと、子育て応援ガイドブック。それから、パンフレット類でございます。千代田区神田一橋中学校ＩＣＴ利活用状況のパンフレットです。それから、３枚のパンフレットは、後ほど、園内業務支援システムの際に、補足資料として使用するものでございます。

それと、本日、クリップ留めの資料、幾つかございますけれども、後ほど、園内業務支援システムで使用する資料となっておりまして、恐縮ですが、１枚目の部分だけは、後ほど、本会議終了しましたら、個人情報の関係で回収をさせていただきます。

最後でございますが、本日の視察のクラス分けになっておりまして、校内の案内図です。

お配りしております資料に過不足などございませんでしょうか。よろしい

でしょうか。
ありがとうございます。
それでは、早速、今回の議題、ＩＣＴ関連に入ってまいりたいと思います。
１つ目は、園内業務システムでございます。
湯浅子ども支援課長、説明をお願いいたします。

子ども支援課長　改めまして、子ども支援課長の湯浅でございます。本日は、園内業務支援システムにつきまして、簡単にご説明をさせていただきます。
お配りいたしました資料、大変多くて恐縮ではございます。資料だけでは分かりにくいので、本日、日本ソフト開発株式会社様にもお越しいただいていまして、実際にご覧になりながらご説明をさせていただきたいと思います。これ以降、着座にて失礼させていただきます。
まず、お手元、先にお配りしております資料、先ほど小玉参事からご説明がありましたが、資料１の後の資料２の２枚目ですね、園内業務支援システムについてというＡ４縦の資料をご覧いただけますでしょうか。
こちらに簡単に概要、現状の課題、それから導入の実績など、資料を掲載させていただいております。本日は、３番のところ、導入実績に基づきまして、簡単にご説明させていただきたいと思っております。
それから、もう一つ、本日お配りさせていただきました資料、「キッズビュー」というチラシと、先ほど、小玉課長から説明があった、後ほど回収させていただくクリップ留めの資料、それと、「シエスタＢｅＢｅ」の資料を併せてご参照していただければと思います。
それでは、早速、こちらの園内業務支援システムのデモンストレーション、キッズビューというシステムでございます。日本ソフト開発株式会社様にご協力いただき、デモを開始させていただきます。よろしくお願いします。

日本ソフト開発株式会社　よろしくお願いします。

子ども支援課長　それでは、まず初めに、令和４年度活用実績のご説明です。
まず、登降園時間の登録と管理からご説明させていただきます。

日本ソフト開発株式会社　はい。それでは、前の画面でご説明させていただきます。
朝、保護者様が園児さんと一緒に登園された際と、降園される際に、玄関先で登降園の時間を打刻していただくご様子を、動画でまず最初にご覧いただきたいと思います。
このようにカードをかざしていただいたりですとか、スマートフォンをかざしていただいて、登降園の打刻を行っていただきます。
それと、もう一つ、保護者さんは、朝、園児さんがお休みしますというのを園にご連絡していただいているかと思いますが、そちらも、保護者様のスマートフォンから入れていただくことができます。
実際に、こちらが保護者様のスマートフォンの画面だと思ってご覧いただければと思います。朝、保護者様が欠席のご連絡を入れられる際に、アカギ

さんのほうが今日病気でお休みですといったことですとか、感染症でお休みの場合は、選択肢から選んでいただいて、例えば、今日はインフルエンザでお休みですと。詳細な情報として、園にお伝えする内容として、熱が38度ありますとか、病院に今日は行きますといったことをご連絡していただきます。

保護者様からご登録をしていただきますと、今度、先生側に先ほどの登降園の打刻の時間と、欠席のご連絡が入っていきます。こちらのほうが先生の画面になっております。今、赤い丸がついておりますが、このように保護者さんからご連絡がスマートフォンから来たものということで、欠席ですということが入っております。

先ほど、動画でご覧いただいた登降園の時間の打刻に関しましては、先生側のほうでは出席ということと、来た時間というものが打刻をされていきます。

以上が、登降園の打刻と欠席のご連絡です。

子ども支援課長　お手元の先ほど回収させていただくといったクリップ留めの資料が、本来、手書きで書いたものをエクセルの表でまとめて、これまでは管理していたんですけれども、全てシステムでできるような形になっています。

また、出欠についても、欠席の場合、電話でご連絡いただいていましたが、同じように、スマートフォンを使って、出欠管理ができるということで、管理が一律にできるということと、登降園についても、先ほどのＱＲコードで、時間が間違いなく正確に記録ができるということになっています。

続きまして、園便りの配付に伴う作業です。園便りにつきましては、今ご説明させていただいた、もう一枚めくっていただくと、８月の園便りというのがあります。こちらのシステムを使って、閲覧できるような形にしたというような内容のご説明をこれからさせていただきます。

日本ソフト開発株式会社　はい。今、こちらの画面が、保護者様のスマートフォンで、８月の園便りをご確認いただく画面になります。先生方に入れていただいた内容のほかに、今、お手元に皆さんにお配りされております園便りを、このようにスマートフォンからご確認いただくことができます。また、必要に合わせて、写真なども、一緒にスマートフォンに先生方が配信をしていただくことができます。

こちらの写真や園便りは、保護者様がスマートフォンで保存をしたい場合には、ダウンロードをしていただいて、いつでも見返していただくことができるようになっております。

以上がお知らせです。

子ども支援課長　はい。今のように、こういった紙で印刷することなくお渡しできますので、紛失したりですとか、あとは、お渡しするときに、個別に園児のウォールポケットという、お渡しする袋があるのですが、そこに入れるような作業ですとかがなくなるということと、迅速な配付といつでも見られるというような利点などがございます。

続きまして、延長保育料に伴う手続の簡素化についてご説明させていただきます。

クリップ留め、もう一枚おめくりいただくと、この500円券というものを資料としてつけさせていただいております。これまで10枚つづりの500円券を園で納付書発行いたしまして、購入した未使用分があったとしたら、それは返却してもらって、また還付手続をするなど、いろいろとありましたが、現在は、降園時間を打刻することで、システムで管理できるようになりましたので、こういった利用券の購入ですとか、お金を返したり、払ったりという手続がなくなったということは、メリットとなっております。

それでは、お願いします。

日本ソフト開発株式会社　はい。登降園の先ほど動画でご覧いただいた打刻ですね、来た時間と帰った時間を入れていただきますと、システムで、スポットの延長料金を自動的に計算するようになっております。

今、画面に出させていただいているとおり、アカギさんのほうがスポットで利用した料金というのが、今、1,000円という形で出ております。こちらが実際に今月９月にご利用いただいた明細としまして、このように、９月５日と４日の日にスポットの延長料金をご利用されたということで、１時間につき１回500円という形で請求されておりますので、そういったところの計算が出てきまして、合計金額が今1,000円という形です。こちらは、月末にお支払いを頂くような形に、システムではなっております。

以上が、延長料金です。

子ども支援課長　はい。続きまして、今後活用していく機能につきましてご説明させていただきます。

今現在、導入はされているんですけれども、段階的に活用を拡張しておりまして、その中で、これからしっかりとやっていきたいというシステムです。

１つ目、保育日誌の作成につきましてご説明させていただきます。

日本ソフト開発株式会社　はい。保育日誌の画面でご紹介させていただきます。

日誌に関しましては、皆さんの今ご利用されている日誌も、当日の出席の人数と欠席の人数を先生方にご記入頂いているかと思いますが、システムを使っていただきますと、出席簿を入れておいていただくと、自動的に人数の集計をしてくれるというふうになっております。

あとは、実際、お休みの園児さんのお名前と、どういった理由でお休みかというところも自動的に転記がされてくるようになっておりますので、先生が出席簿を見ていただいて、書き写したりという必要がなくなっているというところが、こちらの日誌をご利用いただくといいところになっています。

以上、日誌のご説明でした。

子ども支援課長　はい。お手元の資料のクリップ留めにも、日誌を記載させていただいております。

実際の連絡帳がありますので、後ほど、もしお分かりにならなければ、実

物をお渡しさせていただいてご参考にしていただければと思っております。

では、続きまして、保護者へのアンケートにつきましてご説明させていただきます。

日本ソフト開発株式会社　はい。保護者様のアンケートも、保護者様のスマートフォンからご利用いただくことができます。

園からお知らせの配信とアンケートの配信をしていただきますと、保護者さんのスマートフォンにプッシュ通知が届くようになっておりまして、そこからご確認いただくというふうになっております。

アンケートのほうが、このように保護者さんはスマートフォンから選んでいただくだけになります。こちらの例は、今、行事の参加、不参加を確認するアンケートになっております。園では、先生方のほうで、こういった選択式の設問をつくっていただくこともできますし、複数選択の設問もつくっていただけますし、自由記述でお答えいただくような内容の設問もつくっていただくことができます。こちらを保護者様にご回答いただきますと、先生方の画面から、アンケートの回答の一覧というものをご確認いただけるようになります。

参加の人数、不参加の人数といった部分をシステムから出力していただくだけで集計できますので、先生方の負担軽減となります。

以上がアンケートです。

子ども支援課長　はい。続きまして、指導計画の作成につきましてご説明させていただきます。

クリップ留めに最後におつけした、Ａ４横、細かくて申し訳ないのですが、全体的な計画と書いてあるものでございます。月間の指導計画というのをお子さんそれぞれ立てまして、年間計画と併せて指導計画という形で呼んでいるんですけれども、こういったことがシステムでもできるようになるということで、今、ご説明させていただきます。

日本ソフト開発株式会社　はい。指導計画も、まず、皆さんが計画をつくられる際には、全体的な計画をつくられて、年間の指導計画、月間、週間というふうな順番で先生方はおつくりいただいているかと思います。こちらをサポートするような特徴というのが、次のほうに２点ございますので、ご説明させていただきます。

まず、先生方が計画をつくっていただく際に、前年度のつくられた計画というものを参考におつくりいただいているかと思いますので、キッズビューでは、特徴の１つ目としまして、昨年度つくっていただいた計画から簡単に引用をしてきて、つくっていただくことができます。

例えば、令和５年度９月の計画を今つくりますので、令和４年度９月の指導計画、月間の指導計画になるんですけれども、このように引用してきていただきます。あとは、今年度用にもう少し改善される内容とか、こういうふうにしていこうというものを付け加えていただきながら、修正をしていただき、おつくりいただくことができます。

そして、２つ目の特徴としましては、先ほど、全体的な計画から週間の指

導計画まで順番にご利用、作成いただいているというお話をさせていただきましたけれども、今、月間の指導計画ですので、年間の指導計画に書いた内容というものを月間指導計画に下ろしてきていただけるようになっております。これにより、計画に一貫性を持って作成いただけます。

以上が計画です。

子ども支援課長　最後に、システムとは違うのですが、シエスタＢｅＢｅシリーズ、これがいわゆる乳児用の体動センサー、午睡の安全管理のための機械です。要は、うつ伏せ寝で呼吸困難になって、亡くなられた事故などがあって、そういったことを防ぐためのセンサーを併せて導入しています。

これまでお話をさせていただいたとおり、今後、千代田区といたしましては、ＩＣＴ化を推進していくということは、方針として決まってございます。しかしながら、それに伴いまして、新たな課題というのも幾つか出てくるのかなと。これは三者三様だとは思うんですけれども、例えば、連絡帳であると、授受の際に、保育者と保護者との簡単な会話も直接的なコミュニケーションツールとしてあるんじゃないか。それを機械的に連絡だけで終わってしまう。そういうのもいかがなものかというようなご意見もありますし、電子化によって効率的になるところと、いわゆる温かみ的なところ、直接的なコミュニケーションがなくなるというようなことなど、こういったことに影響があるんじゃないかというようなご意見もあります。

こういったＩＣＴを推進していくための留意点というようなご意見を、できましたら頂ければと考えてございます。

また、先ほどご説明させていただいた午睡センサーは、今、０歳児クラスで試行利用しているんですけれども、呼吸停止の見落としですとか、安全管理に役立つとはいっても、機械に任せるだけではいけませんので、保育者が必ず目を離さない。業務量がこちら変わるわけではないと。では、どこまでシステムに任せて、どこまで人がやらなきゃいけないとか、こういったところの課題などもございます。

機械につきましては、感知板の上に布団をひくと、誤ってアラームが鳴るようなこともあったりしますし、事故の防止というところは、一定の安全管理は図れるものの、やっぱり盲点というのもあるというところが相反するものではございます。

事故防止につきましても、一定の寄与が図れるということはあり、導入に向けた準備を進めているところであるんですけれども、やはり保育環境の両立とシステム化、こういったところの人員の転換なども考えると、この先、どうやって進めていけばいいのか。こういった留意点などがあれば、ぜひ、ご意見を頂戴したいと思っております。

そのほか、資料が多く、説明が不足して申し訳ございませんが、お手元の資料で、何かご質問などがあれば、ぜひ、ＩＣＴ推進のためのご意見など、併せて頂戴できればと思っております。

簡単ですが、ご説明は以上です。よろしくお願いいたします。

教　育　長　連絡帳の話がありましたが、手書きでやっているものをデジタルでということですよね。

子ども支援課長　はい。そうです。それをシステム化して、例えば、文章で急いで書いていると、慌てていると何となく分かったりしますよね。何か字でおかしいな、体調不良だな、急いでいるんだな、安心して書いているんだなとか、書き方１つでも何となくニュアンスは通じるところがあると思いますが、それがシステムですと、少し分かりにくくなるようなことも考えられるのかなと。

そういったことを言っていたら切りはないんですけれども、どこまで進めるのかというところの中で、忌憚なくご意見をお願いいたします。

子ども総務課長　それでは、その後、確認の時間を、全体を視察していただいてから、設けますので、もしお気づきの点などございましたら、その際に、また教えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、学校教育システムの推進ということで、山本指導課長、大塚九段中等教育学校の経営企画室長、ご説明をお願いいたします。

指導課長　はい。指導課長の山本です。本日はよろしくお願いいたします。私からは、千代田区のＩＣＴ学校教育システムの推進について、お手元にございます資料を基に、説明をさせていただきます。

本日、この後、授業をご視察いただく予定にもなっております。限られた時間ですので、概略のみとなりますけれども、ご容赦いただければと思います。

では、着座にて失礼いたします。

まず、千代田区のＩＣＴ学校教育システムの事業概要といたしましては、お手元、資料３の上段に記載しております。かいつまんでご説明させていただきますと、特に、令和３年度は、授業や校務等で必要なシステムを一体化し、総合的に、統合的に管理するための機器整備を行い、教員、児童・生徒の力を最大限に引き出すためのアプリケーションを含めた教育ＩＣＴ環境を整えました。

さらに、令和４年度は、教職員の働き方改革に対する取組を一層推進するために、教職員の出退勤管理を電子化するためのシステム構築を行い、今年度、令和５年度から運用を開始しているところでございます。

続いて、資料をおめくりいただきまして、別の資料をご覧ください。こちらの資料を基に、主に６点説明をさせていただきます。

まず、項番１、１点目といたしまして、現在使用している主なアプリケーションについてです。アプリケーションにつきましては、資料に記載のとおりでございますが、学習に使用できるものはもちろんですけれども、ネットモラルに関する内容なども含め、かなり多くのアプリケーションを使用できる状況になってございます。

２点目、ＩＣＴ授業指針（リプレース編）及び「ちよだスマートスクール」についての説明です。

ＩＣＴ授業指針（リプレース編）につきましては、これもステープラー留

めの後ろのほう、別紙としてつけてございますのでご確認ください。

「つながる　創り出す　切り拓く」をキーワードとして、令和３年９月に全校に配付して活用をしていただいているところでございます。また、ちよだスマートスクールについても、学び方改革、教え方改革、働き方改革を目指して、17の目標を示し、様々な場面を通して、周知徹底、指導、助言、支援を行っているところでございます。

資料に戻りまして、項番３、ＩＣＴ環境面についてです。まず、モバイルバッテリーについてですが、児童・生徒は端末を基本的には毎日持ち帰ることになっており、家庭で充電をすることになっております。そのために、子どもたちが充電を忘れてしまったりですとか、午前中からずっとタブレットを使用している場合、ケースによっては、午後、バッテリーが切れてしまうというような状況が発生することがございます。授業に支障を来していた状況があるこのような問題を解決するために、各校の普通教室及び特別支援学級にモバイルバッテリーと充電保管庫を配備しております。

続いて、おめくりいただきまして、資料２ページになります。10月の端末リプレースについてですけれども、現行の使用している児童・生徒用のＧＩＧＡ端末のリース期間が満了することに伴いまして、この10月にリプレースを行います。

その際には、２ページ、中段以降にございますけれども、機種の変更について記載しております。小学校は、現在使用しているＳｕｒｆａｃｅが最軽量モデルであるため、引き続き、同機種を使用することといたしますけれども、最新モデルのＳｕｒｆａｃｅのＧｏ３に統一することにいたします。また、中学校は、端末の高い処理能力を必要とするプログラミング教育や、ＳＴＥＡＭ教育をより効果的に実施可能とするために必要なスペックを満たした機種であると判断するＳｕｒｆａｃｅのＰｒｏ８に統一することといたします。

次に、２ページの項番（３）になります。特別支援学級・通級指導教室用の端末のアプリにつきましては、学校現場にヒアリング等を行ってきた結果として、既に導入済みの無料版のアプリケーションだけではなくて、有償版のアプリケーションについても、これから近日中に契約を行い、導入してまいります。そのことを通して、特別支援学級・通級指導教室に通っているお子さんも、ＩＣＴ学校教育をより効果的にできるように支援してまいります。

資料３ページ、上段、（４）九段中等教育学校につきましては、後ほど経営企画室、大塚室長よりご説明申し上げます。

続いて、４点目、教員の指導力向上に向けた取組についてです。様々な研修を行っておりますけれども、今年度新たな取組として、初任者・異動者を対象としたＩＣＴ研修、そして、学び続ける教師を支援する夏のＩＣＴ研修を開催いたしました。

これまでも様々な研修会を通して、ＩＣＴを活用した指導力向上に向けた

取組を行ってまいりましたが、これらの取組も含め、千代田区の教員が経験年数等によらず、今まで以上にＩＣＴを効果的に授業で活用できるようにしてまいります。

そして、５点目、ＩＣＴの利活用についてです。

（１）授業場面で見られる主な活用と（２）校務場面で見られる主な活用を記載しております。

我々、指導課といたしましても、様々な機会を捉えて、学校訪問しているところではございますが、学校でも様々な場面でＩＣＴを活用しております。本日、この後、授業を見させていただきますけれども、ＩＣＴの活用場面を多くご覧いただけるのではないかというふうに思っております。

最後、６点目、資料をおめくりいただきまして、４ページになります。出退勤管理システムについてです。

教職員の勤務時間管理徹底の実現、事務負担軽減を図ることを目的として、先ほども申し上げました今年度から導入をしております。効果といたしましては、記載のとおり、管理面、事務効率面、費用面が考えられます。

さて、ここまで資料を基に説明させていただきましたけれども、指導課といたしましては、この後、委員の先生方に、もし可能であれば、２点ほどご教示いただければというふうに思っております。

まず１点目が、生成ＡＩの問題になります。学校現場で活用の在り方が話題となっており、我々としても、国や都の動向を注視しつつというところではございますけれども、今後、どのように生成ＡＩを活用すべきかという点、ご教示いただければと思います。

２点目、ＩＣＴを活用した指導スキル、大分向上してまいりました。一方で、スキルの格差が、教員のスキルの格差が二極化しているというような課題も感じているところです。この二極化を改善していくための方策ですとか、教員一人一人のさらなるスキルアップの方策についても、ご教示いただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上になりますけれども、この後、九段中等教育学校の経営企画室、大塚室長よりご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

九段中等教育学校経営企画室長　九段中等教育学校経営企画室長の大塚です。座らせて説明させていただきます。

３ページの（４）をご覧いただきたいと思いますが、九段中等教育学校につきましては、今、システムとしては、先生方が一般の事務で使う校務システム、文章をつくったり、あるいはメールしたりということと、学生、生徒の成績、あるいは健康状態、住所、氏名云々、そういった個人情報を扱う学籍系のネットワーク、それと、ＧＩＧＡのネットワークというふうに、３つ、先生が今１台ずつパソコンを持っているというような状況です。特に、学籍系につきましては、個人情報云々ということもございまして、あえてインターネットに接続しないということをやっておったんですけれども、来年

が各システムのリプレースに当たりまして、予定としては、その３つを１台にまとめるという形で、今、検討を進めております。

その際に、先ほど、保育園等でやっている出欠の状況なども入れまして、３つを１台にして、なおかつ、ダッシュボード機能を充実、活用することで、東京都が進めるような生徒一人一人の特性に合った指導を目指していきたいなというふうに、今の時点では考えている次第です。

また、今、現時点では、先生はＧＩＧＡパソコンを持ち帰っており、学籍系のパソコンはワイヤーロックで持ち運びができないという形になっているわけなんですけれども、今回、１台にすることで、セキュリティについては、ゼロトラストネットワークという、安心できるものしか使わないような形、各先生はアクセス制限というような形で対応を進めて、先生方も、自宅で、在宅勤務が場合によってできるよう検討を進めております。

必ず学校に来て、生徒を教えるだけではなく、いろいろな活用を含めて、民間まではいかないまでも、在宅勤務等の道を開いて、働き方改革に努めていきたいというふうに思っておる次第です。

説明は以上です。

子ども総務課長　はい。山本課長、大塚室長、ありがとうございました。

なお、質問とご意見につきましては、先ほどもお伝えいたしましたとおり、これから学校の中を視察していただきますけども、その後、お時間を設けさせていただきます。

それでは、これから授業見学ということで、神田一橋中学校を視察で見ますが、その前に、盛谷校長先生に簡単にご説明をお願いしたいと思います。

先生、よろしくお願いいたします。

神田一橋中学校長　改めまして、校長の盛谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど、大塚室長が九段中等のお話をされていましたが、以前は九段中等で校長をやっていまして、その大変さも聞きながら、よく分かっております。本当に３台を１台にするという、その大変さをすごく感じながら、話を聞かせていただきました。

また、千代田区は教育のＩＣＴに対して予算をつけていただきまして、生徒が持っているタブレットもそうですし、教員が活用している端末もそうですが、非常に多くのアプリケーションが入っていますし、本当に活用をどうしていくかというところを、これからどんどん進めていかなきゃいけないと思っております。

私からは、お手元に資料３枚つづりのステープラー留めのプリントもあると思いますが、そちらをご確認いただきながら、画面に出しながら、ご説明をさせていただければと思います。

早速、始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日、話させてもらうのは、本校が目指す教育働き方改革の推進と、この後、授業を見ていただきますが、学び方、教え方について、改革を進めていくという内容についてです。

まず、本校ですけれども、千代田区教育委員会の研究協力校として、ちよだスマートスクーを活用した学び方・教え方・働き方改革の推進を研究主題として、３年間の研究を昨年度からスタートしております。今年は２年目です。

その中で、本校の目指す教育として、３つあります。先ほどのスマートスクールを活用した中の学び方・教え方・働き方改革に向けた新たな教育の創造を目指しています個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実、こちらももちろん取り組んでいかなきゃいけないと思っています。３番目は、カリキュラムマネジメントという考え方で、教科横断的な視点を持った教育、こちらも進めている最中です。この３つの目標を、先ほど申し上げたとおり、ＩＣＴを活用しながら進めているという状況です。

まず、働き方改革の推進についてご説明をいたします。ニュースでも出ていますが、教職員の長時間勤務の解消というのは、本校も含めて、教育界の喫緊の課題です。ちよだスマートスクールを活用して、働き方改革も進めています。

幾つか例を挙げていきますと、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ365というのを使って、Ｔｅａｍｓであったり、ＯｎｅＮｏｔｅ等を活用して、以前までデータの共有など、なかなかできていなかったところがあるんですが、共有であったり、共同編集であったり、会議のペーパーレス化というのも、本当に定着しています。また、会議中の記録を同時に編集するのもいろんなところで進めているところでございます。また、各文書のデータも、個人情報は除きますけれども、Ｔｅａｍｓの中で一括管理するように進めています。

今後は、データの整理、削除も進めていくのですが、校務自体のスリム化も、ＩＣＴの活用だけじゃなくて、進めていきたいなというふうに思っております。また、クラウドの活用も進めていきたいと思っています。非常に勤務時間ぎりぎりまでしかいられない、お子さんが小さい教員であっても、家に帰ってから確認とか、仕事ができるというのはすごく幅が広がりますので、ぜひ、進めていきたいなというふうに思っています。

また、先ほどの話にもありましたとおり、保護者への連絡等についても、デジタル化をかなり進めています。２学期からは、以前は紙で配っていた資料もほぼ全てデジタル配信にしていこうとしています。また、出欠の集計や、現在、「すぐーる」というシステムで、遅刻、欠席の連絡も進めています。ただ、どうしても電話じゃないと、声を聞きたいという保護者様もいますので、なかなか全部切り替えるというのは難しいですが、徐々に進めていこうというふうに思っております。

先ほどのお話にあったとおり、勤怠管理システムもそうですし、いろんな活用を進めていきながら、教職員だけではなく、管理職、つまり、副校長の負担軽減も進めていこうと思っております。

続けて、スマートスクールを活用した学び方・教え方について、それぞれデジタルの特性を生かし取り組んだ内容を紹介したいと思います。学び方に

ついては、４つあります。また、教え方についても、４つあります。それぞれ、先ほど説明がありましたが、いろんなコンテンツを使いながら、生徒も非常に使い勝手がいいものばかりですので、どんどん使っています。そのスキルは高まっていますし、教員がそこに追いついていくところも大事かなと思っております。

特に、学び方については、生徒個人の資料作成とか発表、意見交換、また、教え方については、意見の可視化。あと、学習履歴の確認というところに、かなり効果があると考えております。

これからの取組を取り入れて、協働的な学び、個別最適な学びの一体化の充実を目指して、進めていきたいと思っております。

続いて、先ほどから申し上げている協働的な学びと個別最適な学びについて、今見てもらっている画面は、千代田区のＩＣＴの活用について、区民の皆さん、保護者の皆さんに説明で使った資料です。上に目指す方向性３段階になっています。今、本校はどの段階にあるかというところも踏まえながら、お話をさせていただきます。

現状の段階でいいますと、左下の教師と子どもがつながる学びを充実させるための活動及び指導スキルを用い、指導スキルというところが一番基本的なところですが、本校の教職員は全職員、これはもうできている状況です。いつでもこれはできます。

昨年度、研究協力校の取組として、主に協働的な学びについての推進を図ってまいりました。先ほどのグループの真ん中のところに当たります。この協働的な学びについては、話合い活動を特に積極的に取り入れています。生徒の意見交換であったり、教材編集であったり、デジタルの特性を生かすことで、生徒本人の問題解決能力をはじめ、いろんな友達の意見を聞ける、考え方を広げられるという多様性であったりとか発想力であったりとか学習意欲の向上にも非常に効果が認められると思います。

また、英語の授業のときに、オーストラリア、現地国とオンラインで交流を行いました。もちろん中学生は英語でしゃべります。あちらは、日本語を勉強しています。本校生徒は英語でしゃべり、オーストラリアの方は日本語で返します。かなり本人たちの伝えたいことがちゃんと伝わる、そういう実体験ができたので、こういう取組を通して、コミュニケーションスキルの向上であったりとか、自信の獲得であったりとか、達成感というのも非常に効果的かなと思っております。

先ほどの図に戻りますが、そういう取組を各教科でやっていますし、スキルについては、共有するようにしていますので、真ん中の取組、子ども同士がつながる学びというのも、これも、ほぼほぼ教員のほうで活用できるという状況になっています。昨年度１年間、これを中心に研修をやっていましたので、これはもう大丈夫かなと思います。

３番目が実は難しいところです。子ども主体のほうですね。違う資料を見ていただきますが、これは、東京都の教育庁のほうで、デジタルを活用した

これから学びの提案という会がありまして、そこで使われた資料ですね。個別最適な学びを進めるためには、生徒自らが課題を見つけて、それに対して自分のやり方で学びを行い、それを共有とかしながら、発展していくというふうにも提案されているんですね。本校でも、個別最適な学び、例えば、個別の自由進度学習を今年度取り組んでいます。

ですが、なかなか厳しい状況であるのは事実です。私もそうでしたが、授業は基本的に一斉授業というのがもう身についています。教員もそうです。今度はファシリテーターとして、生徒の学習を支援、サポートする側に回るという立ち位置になりますので、発想の転換、指導法の転換というのをやらなければいけません。ですが、本校でも積極的に取り入れている教員がいます。今回は、その例として、今日やっています数学の３年生の内容を簡単に説明したいと思います。

教員は、まず最初に、学び方の手順を説明します。左上です。手順を説明します。生徒はその手順を理解する。分かった上で、生徒個人が、自分の学びたい方法で学習を進めていく、理解をしていくというのが、下のところですね。３番目の上のほうに行きますけれども、その学んだことを、本当に理解できるかまとめ直すということをやると、ある程度理解しているかどうかというのを整理できますので、整理を次に行っています。

続いて、最終的に、整理をし自分で理解できたという形に、１枚のシートにまとめて、デジタルで教員に提出する、それが左上になります。

最後に、学びの振り返りをやります。自分自身が学習の初めに目標を立てるのですが、その目標に対して、どういう取組ができたかが分かる。さらに聞きたいというのをまとめていきます。また、作業しながら、生徒がここまでできたというのを、タグを押す形で記録していきますので、教員のほうは進捗管理もしながら、この振り返りを基に、ちょっと困っている生徒については、支援していく取組を進めています。数学を中心に進めているのですが、今年の目標として、全教科でできる限り個別最適な学びというのを取り入れていきたいなと思っております。

先ほどから申し上げたとおり、なかなか教職員主導の一斉授業から生徒主体の授業というのは難しいところではあるのですが、一斉授業で全てを理解するという生徒ばかりではありません。スピード感も全然違います。最適な学びを進めていくためには、先ほどから申し上げているとおり、個別最適な学びというのをどんどん進めていかなきゃいけないなと思っています。

今年度の研修の中心は、この個別最適な学びを進めていって、図でいう、この右上のところに教職員のスキルを持っていく。指導の形を持っていくつもりでいます。今年１年、また頑張ってまいりたいと思っております。

これでご説明を終わりたいと思います。ありがとうございました。

（視察）

子ども総務課長　視察、お疲れさまでございました。

それでは、質疑応答の時間に入らせていただきたいと思います。ご視察い

ただいた中であるとか、先ほど２件ご説明がございましたけれども、その中で疑問点であるとか、ご提案、ご意見ございましたら、お願いしたいんですが、よろしくお願いいたします。

恐縮ですが、名簿の一番上からの順番からお願いできますでしょうか。

上岡先生から。

上 岡 委 員　では、まず、園内業務支援システムの新規のほうですけども、伺っていて、私はもう全面的に大賛成でして、特に、この園内業務支援システムのところでは、やっぱりマネジメントに関するところをＩＣＴ化しているということで、これ、まさに、保育に携わる人にとってみたら、一番効率化してほしいところではないかというふうに思っていまして、そこがＩＣＴ化できたということは、非常にいいことではないかなというふうに思っています。

それで、先ほどちょっと課題として出ていましたけども、その反面、コミュニケーションとか温かみということがあったと思いますが、私は、ここで、ある程度浮いた時間にコミュニケーションを図るような何か新たなことを始められたらいいのかなというふうに思うんですね。ただ集まってお話をするとかという時間が少しでも取れるといいのではないかなというふうに思いますので、保育日誌であるとか、アンケートであるとか、指導計画とかというのは、まさにＩＣＴ化するべきものであるというふうに思っています。

私が、ぜひ、もしできたらいいなと思っているのは、ＩＣＴ化する前と後のデータ化の、どれぐらい効率化できたかというので、本当ならば数値化できるといいんですが、多分、もう前のデータとかがないですし、難しいと思うんですね。だから、１つの調査方法としては、体感でいいと思うんですね。保育士がこのことによってどれぐらい効率化できていると思うかという主観で、例えば、10％とか20％とか、それが集まれば、大体、平均値で、保育士が20％ぐらい効率化できたと思うということで、それはそれで１つの主観的なデータとしては大事ですので、そういうものがあると、より説得力が増すかなというふうに思いました。

それから、園内システムについての３のところですね、表があるんですけども、４と５のところで、事務の効率化とあって、これはこれでそのとおりだと思うんですね。さらに、プラスのことを書くといいのかな。例えば、正確性、確実性の向上とか、そういうようなことがあると、効率化とともに、よりよくなりましたというところが、目的の中にあるといいなと。ほかのところは、そういうプラスのことは書いてありますので、４と５のところ、もちろん効率化というのもプラスなんですけれども、さらに正確性、確実性の向上などを入れると、よりプラスの面が見えるのかなというふうに思いました。

学校教育システムについては、まず、見学させていただいて、ありがとうございます。

非常にしっかりと使われているなと思いましたが、やはり、先ほどちょっと申しましたが、ＩＣＴと相性がいいのってマネジメントなんですよね。今

も、体育のときでも、自分のマネジメントとして出して、それを先生が見られるようになっているというところで使われていますし、数学もそうでした。やっぱりＩＣＴと相性がいいところで、多分、マネジメントから先に入ってくると思うんですね。その次に、やっぱり教育の本当の中身で使えるかどうかというところ、私は、教科の中で、どこでどれぐらい使えるかというのは、これから検証していくといいかなと思うんですね。

例えば、マネジメントじゃないところで、教育内容、本質のところでの使いやすさということでいうと、数学でいうと、図形なんかは物すごく相性がいいんですね。例えば、展開図なんていうのは、説明するよりも、ＩＣＴの図で開くと、すごく分かりやすいし、投影図なんかを立体で見せるというところでは、非常にコンピュータが使いやすいというところがあるんですね。それは、やっぱり教科によって、どの内容で、どういうふうに使えるかって結構違うと思うんです。だから、何でもかんでもＩＣＴ化ではなくって、どの教科で、どこが得意か不得意かというのを検証しながらやっていくことが、１つ大事かなというふうに思いました。

あとは、生成ＡＩの活用とＩＣＴスキルの教員の向上という課題がさっき出ていましたけども、もちろん生成ＡＩの危険性というのはもういろいろ出ていると思うんですね。それは確かにそうです。それは並行してやらなければいけないんですけれども、実は、大学などでは、もうかなり生成ＡＩを使わせています。私も実際使っていて、まだまだ全然駄目だなというのはすぐ分かるんですね。例えば、小論文の問題なんかを私もわざと生成ＡＩにやらせると、それなりの文章が出るんですけども、読んでいて、やっぱりつまらないんです。

ですので、よく心配されて、小論文の問題で、生成ＡＩを使って回答を出して、得点が取れるんじゃないかということを言われますけども、よく読めばよく分かります。やっぱり、こちらが、まず、そこを見抜く力をつけなくちゃいけないということと、生成ＡＩに答えられるような問題をつくっちゃいけないということなんですね。

ただ、一方で、プラスのことを考えると、生成ＡＩというのはやっぱり便利です。それは何でもそうなんですけども、出たての頃って、危険性をたくさん言われるんですけども、私はどんどん有効活用するべきだというふうに思っています。そこでの危険性は、こちらのほうでチェックしていく、あるいは、危険性があるところは、どんどん排除していくようにするということで、積極的な活用というのが大事かなと思っています。ですから、大学生にはどんどん使わせています。その代わり、そのときに危険なことは何かとか、何をやっちゃいけないかというようなことはしっかりと教育するということが大事かなというふうに思っています。

あと、ＩＣＴスキルの教員の向上という点では、研修をするしかないなと思っています。大学でも、ＦＤ研修というのがあるんですけども、全員でやります。全員で必ずやって、そこでいろんなことを話し合ったりしますの

で、そういう形で、全体研修などによって、少しずつレベルの差はなくなっていくんじゃないかなというふうに思っています。

以上です。

子ども総務課長　先生、ありがとうございます。

それでは、続きまして、清水先生、お願いできますでしょうか。

清 水 委 員　今日はありがとうございました。

園内業務支援システム、すごく便利なシステムだなと思いました。ただ、手元にある保護者との連絡帳を見て、デジタルは便利だけどやっぱり手書きの文字もいいなという感想は持ちました。　質問もいいですか。

子ども総務課長　はい。

清 水 委 員　保育園のこのシステム、本当にすばらしいと思いますが、例えば、保育園と幼稚園と小学校、中学校をどのようにシステムで繋げていく構想なのでしょうか。今、『保・幼・小連携』とか、『小・中連携』とか言われている中で、システム連携みたいなのができるのかどうか。まずお聞きしたい点です。

それと、先ほど保護者との連絡帳の話をしましたけど、保育園のこのシステムによる業務改善が進むことで、職員の子どもに向き合う時間が増えていくと思います。ＩＣＴ化というのはすばらしいと私は思っているのですが、例えば、保護者との連絡帳ですが、デジタル化されたことによって、例えば、コピーアンドペーストでできちゃう部分もありますよね。

ちょっとその辺が安易なものにならないかなって。手書きのよさというのがありますから。ただ、今お聞きしたら、連絡帳の記入はすごく大変なんだと。子どもたちがお昼寝している時間に職員の皆さんは一生懸命連絡帳を書いていらっしゃると聞いたので、デジタルのよさをどう考えていらっしゃるのかお聞きできたらと思います。

次に、学校のＩＣＴの活用です。千代田区は日本の中でも教育のＩＣＴ化を先進的に進めていた地域ですから、今日の神田一橋中学校を見て、先生方や生徒たちが機器やソフトを使いこなしていると感じました。ほかの学校もみんなこのレベルで使えているのでしょうか。

今後、千代田区教育委員会として、教育のＩＣＴ化をどういう方向に持っていこうしているのかをもうちょっとお聞きできたらと思います。教育のＩＣＴ化は、働き方改革と研修という辺りに課題があるのだと思います。ＩＣＴを使いこなすには、教員もスキルアップしなきゃならない。例えば、皆が集まってやる研修って、どうなのと最近思っていて、オンラインだとか、オンデマンドでの研修ツールがどんどん出てきて、いつでもどこでも学ぶことができます。数年後、学習指導要領が改定されて、学習者用デジタル教科書の利用が主流になることを踏まえれば、教員のスキルアップが常に求められていくと思います。働き方改革を推進しながら一定の研修時間を確保するには、人を集めてやる研修だけではないと思っていて、必要となる教員研修の展開をどのように教育委員会として考えているか。また、課題があっ

たら教えていただけたらと思います。

それから、生成ＡＩの活用についてですが、私もＣｈａｔＧＰＴを使っています。上岡先生からもお話があったように、これは便利だなと思いました。多分、子どもたちはきっとこの後使いこなしていくと思います。その過程で、どんなふうに我々が対応したらいいかというのは、これは考えていかなくてはいけないと思います。見守りながらでも子どもたちには使わせていくべきだと、個人的には思っています。

以上です。

子ども総務課長　はい。ありがとうございます。

それでは、続きまして、藤井先生、お願いします。

藤井委員　ご説明等、視察もありがとうございました。

まず、保育園の対応ですけれども、私はとてもよいことだなと思います。保育園などは、特に、登園時刻がそれぞれのご家庭によってばらばらだったり、帰る時刻も保護者の就労システムによって早く帰るお子さんがいたり、遅くまでいるお子さんがいたり、この多様な保護者のニーズに応えるには、こうしたシステムは大変有効だろうというふうに思いました。保護者も安心できるし、ここにも書いてありますが、バスへの置き去りがないよう、ちゃんと帰ったとか、来たとか、それがチェックできるということは、未然防止に非常に役に立つ。子どもの命を預かる園にとっては、重要なことだなと思いました。

これは、多分、保護者の宝物になってくるんだろうと思うんですけれども、書く時間って、恐らく大変なので、先ほど画面に出ていた来た時刻と、お迎えのときに、今日はこんな様子でしたよと、フェイス・トゥ・フェイスでお話をするというような時間が多分持てるかもしれないし、何かの機会にそうしたフェイス・トゥ・フェイスの時間帯がうまく取れれば、こういうものがなくても、お子さんと保護者と保育士の皆さんとの連携は十分にできると思います。私は、このやり方は大変いいと思います。どこで温かみ、そういうものを取るかというのは、今後、園の中で、それぞれが工夫されることを期待したいなと思っています。

それから、ＩＣＴの学校教育システムについてですけれども、生成ＡＩ、これを中学生でやるのか、小学生でそこをやって、チェックするのかというのが、私はちょっと大学生なら多分できると思います。どの学年でこのことを理解して、これはこういうふうに批判的に使ってみたらどうかというのがきっとあると思うんですが、まだそういった研究があまりなされていないかもしれないので、中学校でもし導入するとしたら、どのくらいの時期に何をすればいいのか、使ってもいいけれども、使ったときにどうチェックをするかというのは、研究課題だと思っています。じゃあ、小学生でやらせるのか。小学生の５年生、６年生でできるのか。やってもいいけども、やったらどうなのかというのは、まだ恐らく研究的に進められていないのかもしれないので、こうしたことの動向を調べながら、この生成ＡＩについては考えて

いければいいのかなと思います。

それから、教員の研修ですけども、今日、先ほど体育の先生がつくったすばらしいコンテンツがありますが、小学校の場合は、全科なので、国語、算数も理科も社会も、全ての教科でこういうものを使うことはとても難しいと思いました。先ほどもありましたが、中学校のこういうものを小学校の先生にもお伝えしていただきたい。小学校は教科ごとの研究会や教科教育部会を行っていると思うので、区として、こういう使い方をすると大変効果的だとか、この使い方をすることはあまりお勧めできませんね、あるいは、こういうことをすると、逆にマイナスになるかなというふうな事例を収集して持っていくといいのかなと思います。

このちよだスマートスクールの17、これはとてもいいので、中身がもっとより詳しく、こういうことでやると効果があるよ、ここはすばらしいよということが見えてくるようにするといいのかなと思います。

オンライン研修もいいですよね。オンラインであれば、学校にいて、職場からそのまま参加ができる。オンライン研修も、ふさわしいものとそうでないものとありますから、その辺の精査をしながらやってみたらどうかなと思います。

Ｚｏｏｍが導入されたときは、大学で私も初めてでしたので、丸一日、Ｚｏｏｍの研修に参加しました。オンラインで。９時から４時まで、長時間にわたる研修でしたが、それをやったおかげで、Ｚｏｏｍに自信を持って、学生の前に立てたという経験があります。研修の種類によると思うのですが、オンラインにふさわしい研修があれば、それを積極的に進めるということをやってみたらどうかなと思います。

また、デジタル教科書も入れているんですよね。この活用も大いに工夫して、こうやってやるといいよということがたくさん出てくると、小中ともに、有効なＩＣＴ活用になるのかなと思います。

これだけ予算をしっかりつけて、子どもたちのためにあるとすれば、その予算を使った成果をどうやって検証するかということも、併せて進めていただけると、区民の皆さん、議員の皆さんにご理解いただけるんじゃないかなと思って、伺っておりました。

以上です。

子ども総務課長　ありがとうございます。

それでは、続きまして、粂原先生、お願いできますでしょうか。

粂原委員　はい。ありがとうございました。

まず、園内業務支援システムなんですけれども、本当に便利で、出欠の管理とか、登降園の管理とか、そうしたものが効率化されて、私が担任していたときも、こういうものがあれば、より楽だなというふうなことを思ったりしました。

一方で、例えば、出欠簿等をつけるときに「Ａちゃん、この頃お休みが多いな」とか、気づくこともあって、電子化されることによって、意識が薄く

なるという面もあると思うんですね。例えば、コピーアンドペーストもそうなんですが、指導計画も、昨年のものをコピーして、そこから修正していくということの中に潜む気づきの漏れとか、見逃しとか、そうしたリスクもあるということを、教員、保育者は理解しておくことも大事だと思いました。

同時に、午睡チェックとか、送迎バスの置き去り防止など、様々なシステムが導入されて、負担軽減にはなるかと思いますが、例えば、誤作動のようなリスクはあるのかとか、どういうリスク管理をしていかなければならないかを、保育者がしっかりと把握しているということが大事で、そういうところに気遣いながら、乳幼児の安全をしっかり守っていくということが、これからの大事な課題なのかなと思いました。

それから、私も連絡帳のこのシステムですが、そこに登録している、例えば、おじいちゃんとか、おばあちゃんとか、人数制限はあると思うんですけれど、連絡帳が全員に送ってくるということで、その連絡帳で雰囲気や子どもの成長が伝わったりするんですね。それは、１つ、メリットだなと思いました。

ただ、自分自身の子育ても振り返って思うのですが、今でも連絡帳を読み返すと、自分たちのたどってきた足取りとか、我が子への愛情とか、何を大事にしてきたのかとか、そういうことを思い返す機会になるんですね。そして、また子ども自身も親の愛情やいろんな先生たちに大事にされて育ってきたということを実感する機会になる。どうしても、スマートフォンの中だけにしまわれていると、それをわざわざ取り出して見るという機会はないのだろうなと思ったときに、例えば、最後にでもいいので、日々の記録がプリントアウトされてアルバムのようになるとか、そういうふうなことがあるとよりいいのかなとも思ったりしましたので、ご検討いただければと思います。

そして、ＩＣＴ学校教育システムの推進についてですが、私は、千代田区が本当に園や学校の言葉に耳を傾けてくださるということを実感することがありました。といいますのは、コロナ禍で、ＩＣＴ環境を整えてきた中で、他区はなかなか幼稚園、こども園にまで手が回らない実情がありましたが、千代田区は、幼稚園、こども園にも計画的に導入してくださいました。それによりまして、教員もＩＣＴを保育の中に取り入れて有効活用してみたいという意欲も非常に高まったんです。

今日、授業を見せていただいて、先生方がこれを活用して、よりよい教育をしたいという情熱というものをすごく感じて、やはり区と、現場が情報を共有しながら推進していく、一緒に教育というものを考えていくということがいかに大事かということを、実感したところです。

生成ＡＩの活用につきましても、私も、ＣｈａｔＧＰＴで、その回答に驚くこともあれば、まだこの程度かと思うところと、両方ありますが、これからますます精度があがっていくと考えたときに、生成ＡＩ等から学ぶことというのは多いんだろうなと思いますが、ただ、子どもが学ぶことの意味を自覚していくということが大事で、生成ＡＩの知識をそのまま取り入れて、う

まくやったということではなくて、学ぶことの喜びを伝えていくということが、やはり教育の大きな役割なのかなというふうなことを感じました。

以上になります。

子ども総務課長　ありがとうございます。

それでは、日永先生、よろしくお願いいたします。

日　永　委　員　はい。幾つか付け加えて言うべきことというか、多分、言い換えて言うようなことになってしまうかもしれませんが、１つ目は、園内業務システムと、それから、学校の教育システムと両方に関わることです。様々なお便り類を電子配付するというふうなことになったときに、まず、千代田区内にも要保護、準要保護の子たちがいる中で、ＩＣＴを使った電子的な配付に対応できないお子さんたち、ご家庭があるのか、ないのか。ある場合に、どんなふうに対応されているのかという点が気になったところです。

それから、先ほど、配布されたお便りを後で見られるようにするといいのではないかということもあって、過去の配付物はアーカイブされているのでしょうか。すぐに必要な情報、あるいは、見たいところにたどり着けるような工夫というのがシステム側でされているのかという点が気になりました。

それから、これも粂原先生がおっしゃったことですが、ＩＣカードを使って出入りをチェックするというように、出欠管理にＩＣカードを使うと悪用も可能になります。延長保育料という経済的な負担にも関わってくるので、悪用の防止とか、何らかの間違がないかダブルチェックするような仕組みはあるでしょうか。先ほど出欠簿をつけていれば見えてくるという発言がありましたが、そこを機械に任せっ放しにしても、何らかの間違いが起きないような手だては取っておられるかという点も気になったところです。

また、これも清水先生のほうからご発言があったと思いますが、保幼小中の連携という教育面への活用はぜひやってもらいたいなというふうに思っています。例えば、今日、体育の先生が、中学生で後転ができない場合に小学校の指導が問題であることがあるというお話をなさっていました。これは、もしかしたら幼稚園、保育所での遊びが起点になっている可能性もあったりします。中学生がどこでつまずくか、小学生がどこでつまずくかというところから、その前の段階で何に気をつけていけばいいのかというような指導内容の改善に活用するとか、そういう子どもたちの実情を個別に把握もできるけれども、集団としてのデータ化もできるので、指導内容の改善のためのフィードバックの材料として使っていくような算段というのはあってもいいんだろうなと思います。

もちろん、逆に、保育園時代、幼稚園時代の一人一人の子どもたちのデータを先生たちが引継ぎをしながら、保幼小中と千代田区内でいる子たちについては、見ることができていくと、ＩＣＴ活用、データ活用ということではうまくいくのではないか。せっかくここまでデータを蓄積する仕組みが整ってきたので、活用する段になったら、それをつなげて使うというふうな発想を持っていただけるとよいのではないでしょうか。もちろん、すでに持って

いらっしゃるかもしれませんが、そういうことを思いました。

保幼、小、中と下から積み上げて送っていくものと、中、小学校のデータから前の段階の校園がそれを参考にするという両面のやり取りがあってしかるべきかと思いました。

それから、学校の教育システムで、３台のパソコンを１つにするということは、Ｏｆｆｉｃｅ365も使っていらっしゃるし、いろんな複数のサービスを１台で使っていくときに、最近だと、ＬＴＩ連携を活用して、使う側が使い勝手のいいようにしていくようです。もちろん、機密度の違いがあるというのも理解してはいるんですが、可能な限り、先生方がいろいろなシステムを行ったり来たりするときに、面倒と思わなくてもいいような、使い勝手のよさを、ぜひ、追求していただきたいと思いました。

生成系ＡＩのことも最後何か触れるということなんですが、各大学やさまざまな組織・団体が事例を集めている段階だと思っています。ただ、小中学校の子どもたちにとって、時間を取って文章を書かせる課題は課せられないと言われています。例えば、読書感想文が典型かもしれませんが、単に、課題をこなすというだけであれば、生成ＡＩは得意です。本を全部読み込ませなくても、どこかから何がしかの情報を持ってきて書いてしまうこともできると思います。

音声入力機能を使えば、読み聞かせて認識させて、読書感想文を作成させることも技術的にはできるので、書いたものを評価するとか、書かせることで、力をつけさせたいと思っていても、なかなかそうはいかない時代になっています。

その一方で、やはり早くから限界も知らせておくということは必要で、生成ＡＩは間違うことあります。生成ＡＩに特定の問題を論述させてみると、いくつか事実誤認をした答えが出てきました。子どもたちに、そういう間違いをするんだということを示すのも必要です。学生たちに同じ課題について自分でまとめさせたレポートをグループで相互検証させた後に、その間違いを含む文章を見せて、どこが間違っているか指摘するように指示したところ、学生たちが、間違ったところをチェックできない。ということは、知識が定着していないと判断できます。そういう使い方はできそうだと思います。

他にも、英作文のチェック、例えば、本日見学した中学校でもオーストラリアの中学生とやり取りするときに、自分が話した中身の問題点は、生成ＡＩを使って、チェックできるんですね。ちゃんとした発音ができているかも含めてチェックできる。このようなプラスの使い方も考えられますね。

また、対話型のＡＩなので、ちゃんとした対話をしないと、ちゃんとした答えが出てこないということを、子どもたちには分かってほしいですね。１つ前の学習指導要領から自分の意見に理由をつけて言うという言語活動が重視されて、今は対話的な学習と言われていますが、どうしてもみんな一方通行になっているような感じがするんですね。自分の意見は言うようになった

けれど、みんなで学習するといっても、個々の意見を調整して、やり取りしながら、何かまとめるというふうなところまでなかなかうまくできていない。生成ＡＩとの対話体験をさせていくというのは、対話的な学習を進める上でも大事かもしれません。

なお、これまでお話ししたような生徒側だけにとってプラスになるのではなくて、先生方にも活用の機会があると思います。千代田区内の学校でＩＣＴ活用の中で様々な授業案をみんなで蓄積して、活用しようという話をあるとき聞いたことを記憶しているんですが、そのような蓄積された授業案を基に、暫定的な授業案を生成系ＡＩにつくらせるということはできると思いますね。いろんなデータが蓄積されていれば、逆に、自分が作った授業案を添削させることもできるようになると思います。

最後に、キャリア系の指導をされているある大学の先生、この方はＡＩ活用を研究されている方なんですが、百人以上の学生が書いてきたエントリーシートに対して、一人一人に励ます姿勢で、何文字以内で、とういうような条件をいくつかつけたフィードバックを生成ＡＩにつくらせる。さっきの通知表のコピペの話があったんですが、子どもたちが書いてきた作文やレポートなどいろんなものがもし残っていたとしたら、そこから生成ＡＩに第一次の評価をさせるということも、いずれは可能になりそうです。しかも、一人一人にどうフィードバックするかというのが一括して出せるような仕組みもぼちぼち整いつつあるらしいのです。

いずれにせよ、生徒の側だけじゃなくて、先生がいかに活用するかということについても、可能性がどんどん出てくると思うので、常に情報収集をしていただけると、これも初中等だけじゃなくて、大学教育も含めて、一緒に考えていくべきことかなというふうに思うので、何かお互いに情報流通ができるような、そんなことができていくといいのではないかということを思いました。

すみません。長くなりました。ありがとうございました。

子ども総務課長　日永先生、ありがとうございます。時間の関係で、冒頭でいただいたご質問は、また後日回答させていただきたいと思います。

委員の皆様、様々なご意見いただきまして、ありがとうございます。

まだ質問、ご意見が尽きないとは思いますが、もし、ほかにございましたら、メールなどで事務局のほうまでお知らせいただければと思います。

それでは、最後に、次第３でございます。その他として、今後のスケジュールにつきましてご説明をしたいと思います。

今回の有識者の皆様のご意見につきましては、短期間で恐縮なのですが、２週間後、９月22日の金曜日までをめどとして、メールで一旦ご提出いただきたいと思います。

その後、議事録等をご確認頂きまして、教育委員会としての報告書を今後取りまとめて、11月中に公表する予定ということを考えております。議事録も含めまして、ホームページ上に公表することになりますので、よろしくお

願いいたします。

何かご不明な点などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（な　し）

子ども総務課長　ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、今年度最終の、第２回目の有識者会議を終了させていただきます。改めまして、本日も貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。